

<今朝の聖書から>

【正しさ】これは信仰の問題でなくてもいえることですが、“正しいこと”とか“正しい人”ということについては知っています。法律を破るようなことから離れよう、“正当な取引”で成功しようとも考える事です。不法であっても、あるいは法律ギリギリであっても、常にハングリー精神を持ち、勝利者を目指そうという精神です。自分や一族以外のことを嘆くことは、この正しさにはできません。おまけに、このような正しさは、悪の働きには、無知な時が、実は多いのです。沢山の正しい営みが、“悪が‘正しいこと’を知っている”程には、悪しきことを知らないために、誘惑され、破壊されていきました。聖書の教える正しさは、共に嘆く友のいる喜びだと語ります。パウロは“今わたしは、あなたがたのための苦難を喜んで受けており(コロサイ1:24)”と語ります。

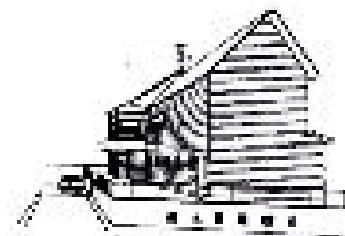
【癒し・奇跡】イエス様の働きは、癒しという奇跡と、福音の教えから始められました。しかしこの癒しですが、“悔い改めて福音を信ぜよ(1:15)”という御言葉と共にあるということです。癒しが本当にそこにあっても、奇跡が独り歩きし、奇跡を求めても、奇跡の起こることと起こらないことがあったら、大変でしょう。神様にお任せするしかないのです。

【悪霊の知識】“悪にまさる主”をいちばん知っていたのが悪霊でした。イエス様もこのことはよくご存じで、“ナザレのイエスよ、あなたはわたしたちとなんの係わりがあるのです。わたしたちを滅ぼしにこられたのですか。あなたがどなたであるか、わかっています。神の聖者です(1:24)”と言っています。今朝の箇所では“悪霊どもに、物言うことをお許しにならなかった。彼らがイエスを知っていたからである(1:38)”とある言葉に、私たちが力を頂きましょう。

【最高の知恵】悪霊の思いは、絶えず私たちに近づこうとします。特に黙って、思いを巡らせる時に、悪霊は語りかけてきます。イエスに荒野で声をかけてきた、あの悪霊です。先に“私たちは正しいことを知っている”と言いましたが、悪霊はもっとよく、敵として正しい事柄を知っています。どのような魂が、一番征服し易いか、しかし私たちには、主にある知恵があります。それはまず福音を信ずる所から始まります。憐みを求めるところから始まります。あの異邦人を含む十人のらい病人が癒された記録(ルカ17)でも、突然癒しが起こったのではなく“憐れんで下さい”という神様に対する知恵から始まっています。苦しいことは多くありますが、占いやまじないといった、聖書が示している悪から遠ざかり(ガラテヤ5:20) 全てに先立つ知恵を見失わないようにしましょう(ピリピ3:8)

週報

2010年 6月 6日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042